

(5)中高一貫カリキュラムにおける教科の取り組み

国語科

1. 「表現」に重点をおいた国語科の指導

本校では以前から表現活動に重点を置いて、国語科の指導を行ってきた。そのカリキュラム上の特色の一つとしては、高校三年生全員に、「表現」の授業が週二時間、必修としていることが挙げられる。(平成十三年度まで。平成十四年度からは選択。)この時間は、生徒が学校で行ってきた表現活動の総まとめと位置付けている。生徒にとっては、これまでの自分自身の言語生活を見直す機会になっているとともに、AO入試や推薦入試などで必要な「小論文」を書くことや、「面接」を受けるうえで役立っている。

また、本校では、中学1年生から高校3年生までの総合的な学習の授業「総合人間科」に取り組んでいるが、その表現活動に必要で、「ことば」に関するものの指導(例えば、電話での対応のしかた、依頼状・礼状の書き方、効果的な発表のしかた、スピーチの練習、レポート、小論文、感想文の書き方など)を、適宜、国語科で行っている。その実践をまとめ、本校独自の『国語表現テキスト』を作成した。

新学習指導要領では、「話す・聞く」「書く」により重点が置かれ、中学で使用する教科書もそれに沿った編集がなされている。これらの指導に力を注ぐのはもちろんだが、「読む」ことも従来通り授業で取り上げたいと考えている。そこで、現行の教科書などで、中学校でぜひ読んでおきたい作品(評論、小説、韻文作品)を精選し、中学生用の副読本を作成し、三年間通して利用しようと考えている。

2. 国語科の単位数について

時間的制約の中で、生徒が学ぶべき事柄を必要最小限で抽出し、授業で取り扱っている。後は生徒に自宅学習用の教材を配布し、自主的な学習を促したり、放課後の補習授業などで補っている。また、中学書写の発展的学習として、選択プロジェクトでの授業(すて

きで書?毛筆教室)を行っている。

3. 大学との連携

名古屋大学東山キャンパス内にある、という立地条件を生かし、生徒たちが言葉についての認識を深める機会を折に触れて持つことができる。国語科の学習の一環として、また選択プロジェクト、新教科群の国語科関連分野の学習での、生徒の大学研究室訪問や、教授、大学生、留学生との交流などによる大学との連携が考えられる。こういったことが、生徒の知的好奇心をひきだし、異年齢、異文化コミュニケーション能力を高めることにつながっていくと考えている。

(文責：杉本雅子)

※この表は平成14年度実施のものである。○数字は、単位数である。

	学 年	必修科目		選択科目	
入門基礎期	中学1年	国語④			
個性探求期	中学2年	国語③		選択プロジェクト・ すてきで書?毛筆教室①	
	中学3年	国語④			
専門基礎期	高校1年	国語Ⅰ④			
	高校2年	現代文②	古典Ⅰ②	古典講読②	
個性伸長期	高校3年	現代文②	古典Ⅰ②	古典Ⅱ③	表現②